

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

放射線療法の提供体制構築に資する研究（21EA1010）に関する研究
（分担項目：緩和的放射線治療の提供体制の構築）

研究分担者 高橋 健夫 埼玉医科大学 医学部 放射線科 教授
研究協力者 鹿間 直人、中村 直樹、齊藤 哲雄、和田 仁、
全田 貞幹、中島 香織、大久保 悠

研究要旨

緩和的放射線治療はがん性疼痛において薬物療法とともに重要な役割を担っている。一方でがん患者の4割で疼痛緩和が不十分であるという調査結果が見られ、場所を問わずがん患者の疼痛緩和を行える体制づくりは喫緊の課題である。緩和的放射線治療の普及に向けて①緩和的放射線治療の地域連携に関するアンケート調査を企画した。加えて②緩和的放射線治療の質的評価を全国の施設で行うことで、国内の実態を把握する。次年度は①②を実施し、得られた結果を元に緩和的放射線治療の普及（治療・ケアが必要な患者に緩和的放射線治療を速やかに行える体制づくり）のための提言を作成し、公表する予定である。

A. 研究目的

緩和的放射線治療はがん性疼痛において薬物療法とともに重要な役割を担っている。一方でがん患者の4割で疼痛緩和が不十分であるという調査結果が見られ、場所を問わずがん患者の疼痛緩和を行える体制づくりは喫緊の課題である。緩和的放射線治療においては先行研究で地域連携が不十分であることが明らかとなっている本研究では地域連携の障壁となっている課題について、全国調査を行うことで明らかにし、緩和的放射線治療の普及に向けた提言を行う。加えて緩和的放射線治療の質的評価を行い実態調査を行う。

B. 研究方法

①緩和的放射線治療の地域連携に関して、日本放射線腫瘍学会会員（放射線治療専門医）を対象にアンケート調査を行う予定である。アンケート内容は院外施設との連携状況、連携窓口、緩和的放射線治療紹介件数、各種広報活動の実態等を調査し、緩和的放射線治療の普及を妨げる障壁課題について地域別、病院機能別に解析を行う。現在アンケート調査内容について検討中である。アンケート調査実施後に障壁課題を抽出し、地域連携の強化に向けた提言を作成する。

②先行研究で骨転移用Quality Indicator(QI)と脳転移用QIが作成され論文発表されている。この2つの指標を用いて全国40程の医療機関で骨転移、脳転移に対する緩和的放射線治療の質的評価を行う。医療機関は医育機関、一般病院、機能別にカテゴリー分類を行い診療プロセスの質的評価を実施する。骨転移QIは4項目、脳転移QIは3項目からなる。このような研究は国際的にみても例がなく、緩和ケア領域においても進んでいない質的評価であるので、研究結果は大きなインパクトが期待される。

C. 研究結果

①緩和的放射線治療の地域連携に関する全国アンケート調査の調査内容について現在検討中である。
②骨転移QIならびに脳転移QIの詳細を下記に示す。研究実施施設はJASTRO緩和的放射線治療委員会・J

ROSG緩和医療委員会委員の施設を中心に全国40程度の施設をカテゴリー別に分類し、研究計画書ならびに倫理申請の準備中である。次年度6月頃の研究開始を予定している。

緩和的放射線治療 Quality Indicator (QI)

骨転移		
	分母	分子
線量分割	骨転移への放射線治療を受けた全症例	10分割以内の放射線治療を受けた全症例
治療前疼痛評価	骨転移への放射線治療を受けた全症例	痛みに関する何らかの記載が診療録に存在する全症例
脊髄・馬尾圧迫例に対する早期治療開始	脊髄・馬尾圧迫をきたす脊髄転移への放射線治療を受けた全症例	紹介日あるいは翌日に放射線治療が開始された全症例
脊髄・馬尾圧迫例に対するステロイド併用	脊髄・馬尾圧迫をきたす脊髄転移への放射線治療を受けた全症例	放射線治療開始日の前後にステロイドの開始あるいは増量がなされた全症例
脳転移		
治療前の全身状態評価	脳転移に対する放射線治療を受けた全症例	放射線治療部門の診療録にPSが記載された全症例
全脳照射の完遂	脳転移に対する全脳照射を受けた全症例	全脳照射が予定線量まで行われた全症例
全脳照射の開始時期	脳転移に対する全脳照射を受けた全症例	紹介後10日以内に治療を開始した全症例

D. 考察

①緩和的放射線治療の地域連携に関しての全国調査は先行研究で把握されている概要に加え、障壁となっている細部の項目を拾い上げることで今までに例がない具体的な提言の作成が期待される。②QIを用いた緩和的放射線治療の診療プロセスにおける質的評価は国際的にも類を見ない。国内における診療の質的レベルの実態を把握することで、緩和的放射線治療の現状に即したより具体的な提言を製作できると考えている。

E. 結論

場所を問わず速やかに治療・ケアが必要な患者に緩和的放射線治療を届けるための提言作成、ならびに啓蒙活動に向けて①地域連携の全国アンケート調査ならびに②緩和的放射線治療における診療プロセスの質的評価研究を立案し、研究が進行中である。今年内に研究成果を得て提言を作成し、具体的な普及啓蒙活動を検討する。

G. 研究発表

1. 論文発表

・Saito T, Shikama N, Takahashi T, et al. Quality indicators in palliative radiation oncology. : Development and pilot testing. *Adv Radiat Oncol* 2021;7:100856.

H. 知的財産の出願・登録状況

特記事項なし